

青梅市文化財ニュース

第 4 1 7 号

令和 4 年 7 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

荒神堂と来迎寺

青梅駅から西方森下陣屋跡（現熊野神社付近）を過ぎると、裏宿町に入ります。そこから北側山根踏切を超え、線路沿いを西に進んでいくと、荒神堂があります。

この荒神堂は『青梅郷土誌』（青梅市史史料集第 44 号）によると「荒神社 小社 裏宿の山麓にあり。赤ぬり木造小社屋。」の記載があります。

赤ぬりのお堂の中には、安永三申午（1774）年九月金剛寺住職の名前が書かれた棟札があります。

戦前は、毎年 1 月 25 日に青年団が中心で行っていた子供達によるお祭りがあり、町内の各家庭を太鼓を叩いて歩きながらおひねりをもらい、そのお金でお菓子等を買って子供達で食べたそうです。また、お祭りの時には、荒神堂のところにあった小さな梅の木の枝に、半紙を縦に半分に切りそれを縦にのりで貼って長くし、「奉納 天満天神宮」と書いてつるし、豚汁などを作って食べたといいます。現在は行われていません。

戦後昭和 40 年代頃、昔の伝統を残したいと思い、子供達に呼びかけ何人かで、奉納の旗を作ったことがあったそうですが、一度だけで終わってしまいました。

現在は、裏宿町 1 丁目自治会により 1 月に祈願祭と正月のお炊き上げが行われています。

荒神堂の西隣には来迎寺（廃寺）がありました。

来迎寺は、寛仁年間（1017～1020 年）金剛寺住職（二世）が末寺として建立した五寺（常保寺、東光寺、西福寺、来迎寺、梅岩寺）の一つです。（来迎寺、西福寺はすでに廃寺）

『杣保志』（青梅市史史料集第 47 号）には「来迎寺 同所金剛寺末寺也。小名ウラ宿ノ北裏。寺地凡十五間二八間程。御年貢地。本尊阿弥陀。開山開基不知。堂間口二間、奥行五間、南向。」の記載があります。

また、『青梅郷土誌』（青梅市史史料集第 44 号）には「来迎寺 裏宿の山際、線路北側に荒神社があるが、この前方西側に杉林中平坦な所がある。此處にもと来迎寺といふ寺があり百年ばかり前に廃寺となった。この地の一隅に無縫塔二基あり、一は寶暦の銘がある。この他墓碑數基が散在し、寛文、享保の文字が見える。

新風土記に言ふ 来迎寺。村の西にあり瑞雲山と號す。本尊彌陀。今住職なし 金剛

寺末。」の記載があります。

『青梅郷土誌』は、昭和 16（1941）年に発行されており、それには、100 年ばかり前に廃寺になったとの記載があるので、現在から 180 年前にはすでに廃寺となっていたものと思われます。

現在でもこの近くには墓石、お地蔵様をいくつも見るができます。

来迎寺の西側（市営裏宿住宅の線路北側）には、昭和 20（1945）年終戦の日か前日かはっきりしませんが、早朝に日本の戦闘機が山林に墜落した所が残っています。木の根元には数年前までジュラルミン等が刺さった状態で残っていました。

現在、木の根元には戦闘機が墜落した跡が残っています。

参考文献

「裏宿町の神さま・仏さま（平成 25 年度裏宿町文化祭企画展）」：

裏宿町文化祭実行委員会発行

「裏宿の戦争体験・井上綾綱関係（平成 27 年度裏宿町文化祭企画展）」：

裏宿町文化祭実行委員会発行



（荒神堂）

（文責 東山啓子）